

令和2年度 幼稚園担当指導主事・担当者会議

都道府県協議会 協議主題について

文部科学省初等中等教育局幼児教育課
幼児教育調査官 小久保篤子

協議主題 1

幼稚園教育において育みたい資質・能力を踏まえた教育課程に基づく指導計画の作成や指導実践について

【協議の視点①】

幼児期にふさわしい生活が展開され、適切な指導が行われるよう、それぞれの幼稚園の教育課程に基づき、調和のとれた組織的、発展的な指導計画を作成し、幼児の活動に沿った柔軟な指導を行わなければならないとされている。教育課程に基づき指導計画を作成するとはどういうことか。

幼稚園教育要領

第1章 総則 第3 教育課程の役割と編成等

2 各幼稚園の教育目標と教育課程の編成

教育課程の編成に当たっては、幼稚園教育において育みたい資質・能力を踏まえつつ、各幼稚園の教育目標を明確にするとともに、教育課程の編成についての基本的な方針が家庭や地域とも共有されるよう努めるものとする。

解説P78
一部抜粋

教育課程編成の目的

常に忘れてはならない

- 幼稚園は学校教育の始まりとして、幼稚園教育の基本に基づいて展開される幼児期にふさわしい生活を通して、幼稚園教育の目的や目標の達成に努めることが必要である。このため、幼児の発達を見通し、その発達が可能となるよう、それぞれの時期に必要な教育内容を明らかにし、計画性のある指導を行うことが求められる。

教育課程

- このような意味から、それぞれの幼稚園は、その幼稚園における教育期間の全体にわたって幼稚園教育の目的、目標に向かってどのような道筋をたどって教育を進めていくかを明らかにするため、幼稚園教育において育みたい資質・能力を踏まえつつ、**各幼稚園の特性に応じた教育目標を明確にし、幼児の充実した生活を展開できるような計画を示す教育課程を編成して教育を行う**必要がある。

教育課程とは何かの説明

具体的な編成の手順の参考例は解説P82参照

具体的な編成の手順について（参考例）

① 編成に必要な基礎的事項についての理解を図る。

- ・ 関係法令，幼稚園教育要領，幼稚園教育要領解説などの内容について共通理解を図る。
- ・ 自我の発達の基礎が形成される幼児期の発達，幼児期から児童期への発達についての共通理解を図る。
- ・ 幼稚園や地域の実態，幼児の発達の実情などを把握する。
- ・ 社会の要請や保護者の願いなどを把握する。

② 各幼稚園の教育目標に関する共通理解を図る。

- ・ 現在の教育が果たさなければならない課題や期待する幼児像などを明確にして教育目標についての理解を深める。

③ 幼児の発達の過程を見通す。

- ・ 幼稚園生活の全体を通して，幼児がどのような発達をするのか，どの時期にどのような生活が展開されるのかなどの発達の節目を探り，長期的に発達を見通す。
- ・ 幼児の発達の過程に応じて教育目標がどのように達成されていくかについて，およその予測をする。

④ 具体的なねらいと内容を組織する。

- ・ 幼児の発達の各時期にふさわしい生活が展開されるように適切なねらいと内容を設定する。その際，幼児の生活経験や発達の過程などを考慮して，幼稚園生活全体を通して，幼稚園教育要領の第2章に示す事項が総合的に指導され，達成されるようにする。

第2章に示すねらい及び内容に基づく活動全体を通して、資質・能力が育まれ、資質・能力が育っていくと、幼児の姿（「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」等）としてあらわれてくる。

⑤ 教育課程を実施した結果を評価し，次の編成に生かす。

- ・ 教育課程の改善の方法は，幼稚園の創意工夫によって具体的には異なるであろうが，一般的には次のような手順が考えられる。

ア．評価の資料を収集し，検討すること

イ．整理した問題点を検討し，原因と背景を明らかにすること

ウ．改善案をつくり，実施すること

幼稚園教育要領

第1章 総則 第4 指導計画の作成と幼児理解に基づいた評価

1 指導計画の考え方

幼稚園教育は、幼児が自ら意欲をもって環境と関わることによりつくり出される具体的な活動を通して、その目標の達成を図るものである。

協議の視点①

幼稚園においてはこのことを踏まえ、幼児期にふさわしい生活が展開され、適切な指導が行われるよう、それぞれの幼稚園の教育課程に基づき、調和のとれた組織的、発展的な指導計画を作成し、幼児の活動に沿った柔軟な指導を行わなければならない。

解説P98
一部抜粋

幼稚園教育要領に示された5つの領域の「ねらい」や「内容」をそのまま教育課程における具体的なねらいや内容とするのではなく、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連を考慮しながら、幼児の発達の各時期に展開される遊びや生活に応じて適切に具体化したねらいや内容を設定することとなる。

- 教育課程は幼稚園における教育期間の全体を見通し、どの時期にどのようなねらいをもってどのような指導を行ったらいかがが全体として明らかになるように、具体的なねらいと内容を組織したものとすることが大切である。

要領の第2章に示す事項が総合的に指導され、達成されるように（解説P82）

- **指導計画では、この教育課程に基づいて更に具体的なねらいや内容、環境の構成、教師の援助などといった指導の内容や方法を明らかにする必要がある。**指導計画は、**教育課程を具体化したものであり、具体化する際には、一般に長期的な見通しをもった年、学期、月あるいは発達の時期などの長期の指導計画（年間指導計画等）とそれと関連してより具体的な幼児の生活に即して作成する週の指導計画（週案）や日の指導計画（日案）等の短期の指導計画の両方を考えることになる。**

- その際、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に置きながら、発達の各時期にふさわしい生活が展開されるように、指導計画を作成することが大切である。また、指導計画は一つの仮説であって、実際に展開される生活に応じて常に改善されるものであるから、そのような実践の積み重ねの中で、教育課程も改善されていく必要がある。

教育課程

- ・教育課程に沿って園生活を長期的に見通す
- ・全教職員が話し合って作成する

長期の指導計画

その時期の発達や幼稚園生活の流れなどを見通す
教師の思いや願いを含ませる

具体的なねらいや内容を設定する

具体的なねらいや内容、季節や行事などを踏まえた
環境の構成を想定する

その時期の環境に関わって活動する幼児の姿の予想に
基づき、教師の援助を想定する

- ・長期の指導計画を基に、実際の幼児の姿に着目して具体的に作成する
- ・学級担任が中心となって作成する

短期の指導計画

前週、前日の幼児の生活する姿から発達を捉える
教師の思いや願いを含ませる

具体的なねらいや内容を設定する

具体的なねらいや内容、幼児の興味や関心などを踏まえて、
具体的な環境の構成を想定する

その週や日の環境に関わって活動する幼児の姿の予想に
基づき、教師の具体的な援助を想定する

幼児の姿

周囲の環境

教師の願い

教育課程

教育課程に基づいて

指導計画の作成

具体的なねらい及び内容を明確に設定し、適切な環境を構成することなどにより、
幼児が主体的に活動を選択・展開できるようにする

- ・具体的なねらい及び内容の設定に当たって考慮する視点（ア）
- ・具体的なねらいを達成するための適切な環境の構成（イ）

幼児の活動を理解しながら

幼児の活動の展開と教師の援助

指導の過程の評価

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

【協議の視点②】

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、第2章に示すねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の幼稚園修了時の具体的な姿であり、教師が指導を行う際に考慮するものとされているが、どのように考慮したらよいか。

幼稚園教育要領

第1章 総則 第2 幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

協議の視点②

3 次に示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、第2章に示すねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の幼稚園修了時の具体的な姿であり、教師が指導を行う際に考慮するものである。

解説 P 52
一部抜粋

- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、第2章に示すねらい及び内容に基づいて、各幼稚園で、幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、幼稚園教育において育みたい資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿であり、特に5歳児後半に見られるようになる姿である。
- 幼稚園の教師は、遊びの中で幼児が発達していく姿を、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に置いて捉え、一人一人の発達に必要な体験が得られるような状況をつくったり必要な援助を行ったりするなど、指導を行う際に考慮することが求められる。
- 実際の指導では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が到達すべき目標ではないことや、個別に取り出されて指導されるものではないことに十分留意する必要がある。もとより、幼稚園教育は環境を通して行うものであり、とりわけ幼児の自発的な活動としての遊びを通して、一人一人の発達の特性に応じて、これらの姿が育っていくものであり、全ての幼児に同じように見られるものではないことに留意する必要がある。また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は5歳児に突然見られるようになるものではないため、5歳児だけでなく、3歳児、4歳児の時期から、幼児が発達していく方向を意識して、それぞれの時期にふさわしい指導を積み重ねていくことに留意する必要がある。

【幼稚園教育要領】

第2 幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

- 1 幼稚園においては、生きる力の基礎を育むため、この章の第1に示す幼稚園教育の基本を踏まえ、次に掲げる資質・能力を一体的に育むよう努めるものとする。

(略)

育てたいのは資質・能力（一体的に育む／努める）

- 2 1に示す資質・能力は、第2章に示すねらい及び内容に基づく活動全体によって育むものである。

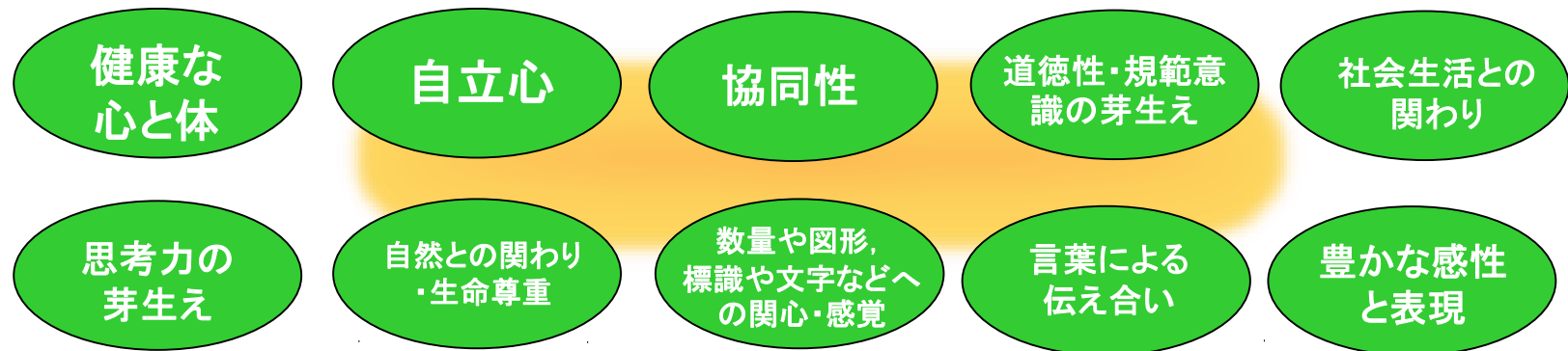
この活動を通して、資質・能力は育まれていく

- 3 次に示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、第2章に示すねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の幼稚園修了時の具体的な姿であり、教師が指導を行う際に考慮するものである。

資質・能力が育っていくと、幼児の姿（「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」等）としてあらわれてくる。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

○ 5領域のねらい及び内容に基づいて、各幼稚園で、幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、幼稚園教育において育みたい資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿であり、特に5歳児後半に見られるようになる姿である。

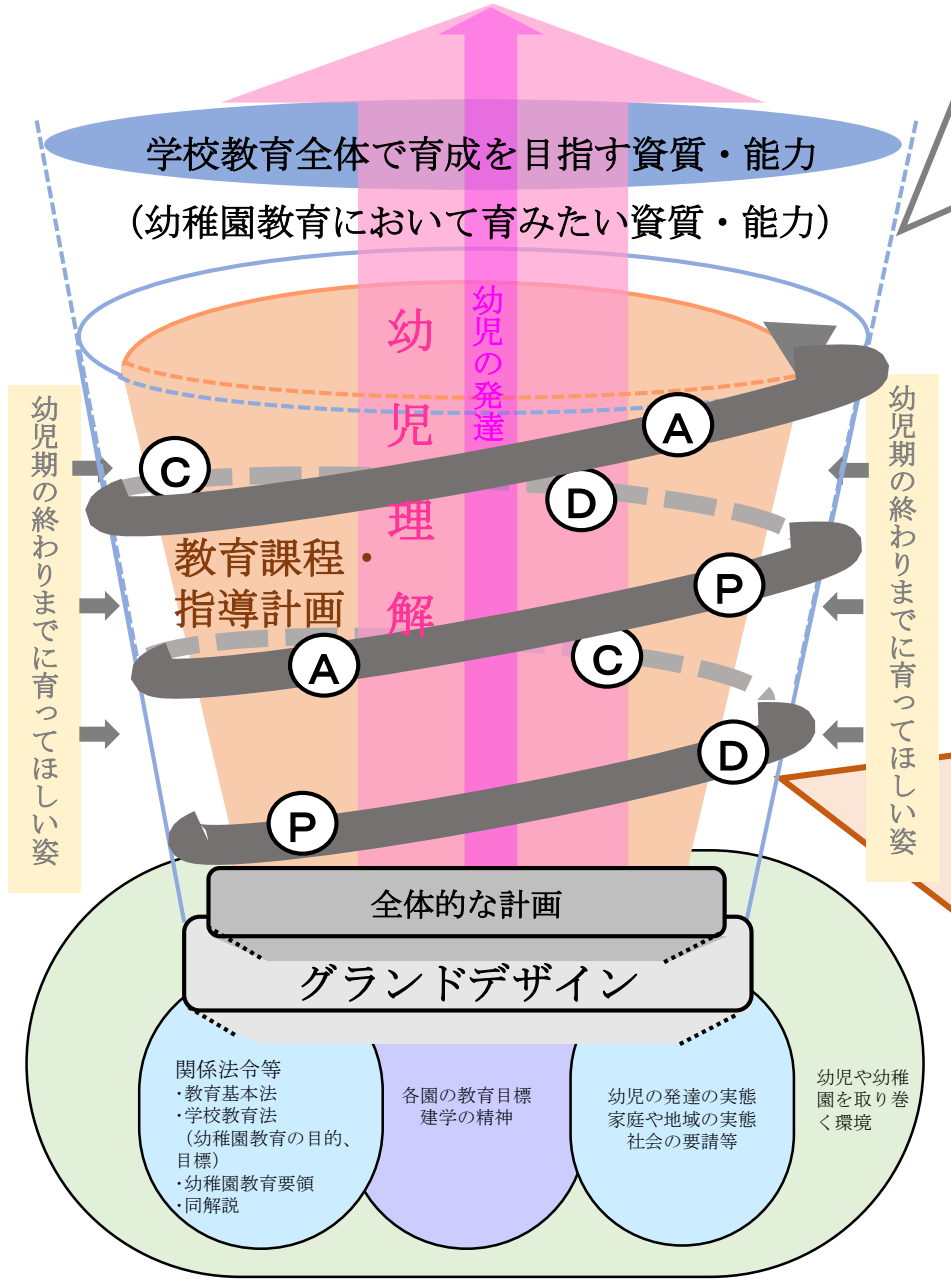


○ 幼稚園の教師は、遊びの中で幼児が発達していく姿を、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に置いて捉え、一人一人の発達に必要な体験が得られるような状況をつくったり必要な援助を行ったりするなど、指導を行う際に考慮することが求められる。

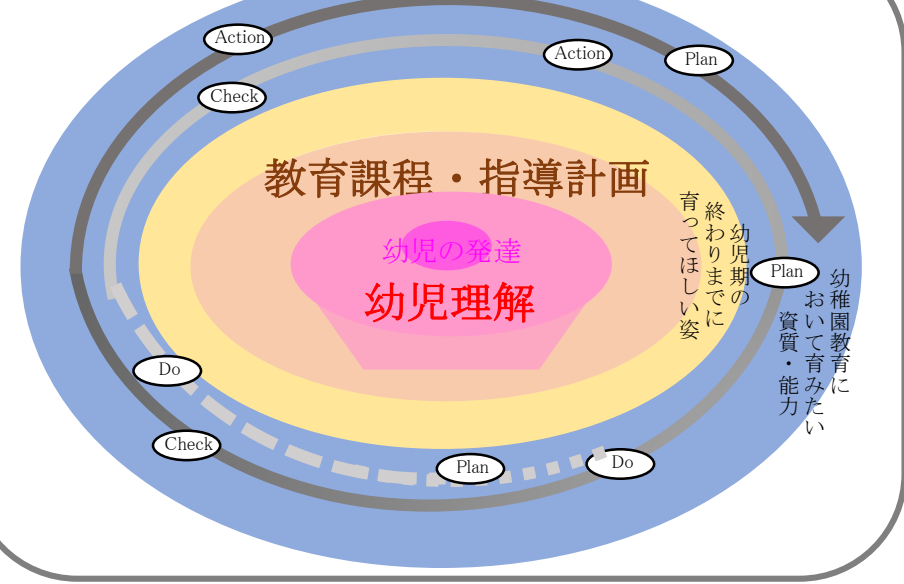
○ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が到達すべき目標ではないことや、個別に取り出されて指導されるものではないことに十分留意する必要がある。幼児の自発的な活動としての遊びを通して、一人一人の発達の特性に応じて、これらの姿が育っていくものであり、全ての幼児に同じように見られるものではないことに留意する必要がある。

○ 5歳児に突然見られるようになるものではないため、5歳児だけでなく、3歳児、4歳児の時期から、幼児が発達していく方向を意識して、それぞれの時期にふさわしい指導を積み重ねていくことに留意する必要がある。

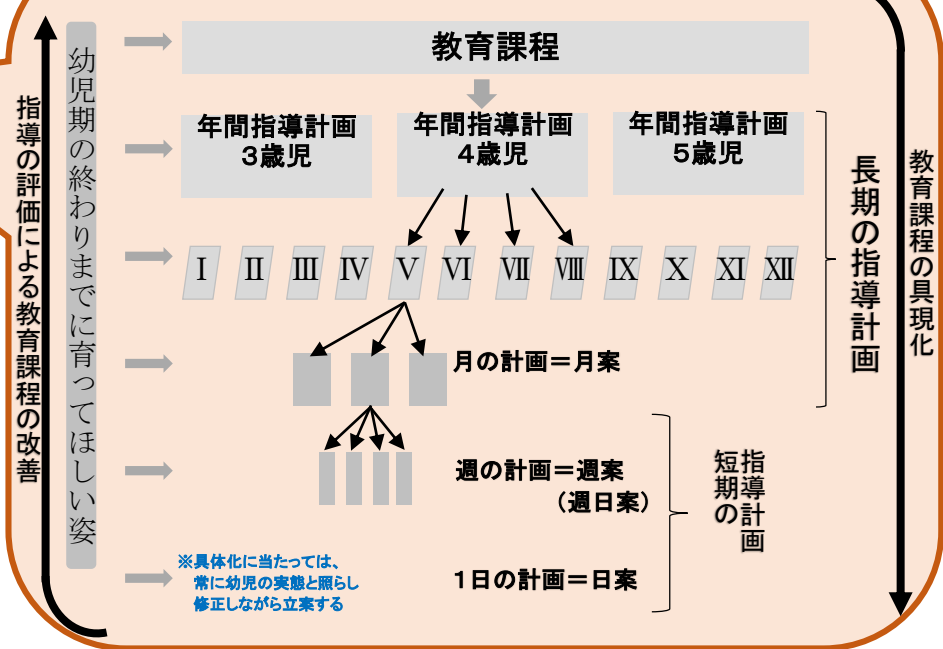
カリキュラム・マネジメントによる質向上 (イメージ図)



上から見てみると



【教育課程と指導計画の関係 (イメージ図)】



- 前のスライドの図は、幼稚園教育要領における「『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』を踏まえ教育課程を編成すること」の「踏まえ」のイメージ

例えば、

- ・ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、目標や目的としたり、教育課程や指導計画に位置付けたりするものではない。念頭に置きながら、幼児を理解し、また教育課程の編成や指導計画の作成をする。
- ・ 教師は、幼児の活動の様子から幼児の姿を捉える。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、幼児の姿を捉え、どのような資質・能力が育っているのかを読み取っていくときの手掛かりとなる。
- ・ 幼児は総合的に発達しており、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は絡み合って幼児の姿として現れる。そして、その芽生えは、幼児の言動に明らかに現れてはいなくとも、その言動の奥では芽生えつつあるかもしれない。